

水無月、六月です。

本州の多くの地域では、梅雨の季節の始まりです。恵みの雨なのですが、今月は祝日が唯一ない月でもあり、働く人にとってはあまり歓迎できない月でもあります。7月には海の日、8月には山の日をつくったのだから、今月も水の日でもつくればよいかもしれませんね。

とはいえ、今月末には参議院選挙の公示があり、いよいよ18歳からの投票がはじまります。社会科、公民科の教員の責任はますます重大になります。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

5月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

年次大会の案内、部会の案内などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

最新のニュース、5月に行われた活動などを報告します。

■夏の経済教室の受付がはじまりました。

名古屋中学向け 8月4日(木) ウィンクあいち

名古屋高校向け 8月5日(金) ウィンクあいち

大阪中学向け 8月8日(月) 国民会館

大阪高校向け 8月9日(火) 国民会館

東京高校向け① 8月18日(木) 東証ホール

東京高校向け② 8月19日(金) 東証ホール

東京中学向け① 8月22日(月) 東証ホール

東京中学向け② 8月23日(火) 東証ホール

若い先生向けのBasicシリーズ、教科書を読み解くシリーズ、実践提案など多彩なプログラムを今年も用意しています。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

受け付けは下記の東京証券取引所のHPからできます。

<http://www.jpx.co.jp/learning/education/school/for-teachers/index.html>

■東京部会 (No. 83) を開催しました。

日時：2016年5月12日(木) 19:00～21:00

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室

主な内容：参加者10名。

- (1) 夏の経済教室の内容の確認が行われました。6月1日以降に各学校に案内が送付され、受付は6月第一週から開始されます。
- (2) 12月の冬の経済教室の内容、会場などの確認を行いました。
- (3) 名古屋部会に出席した杉田孝之先生（千葉県立津田沼高）から報告がありました。
また、杉田先生が名古屋部会で提案した「経済の基礎概念から設計する有権者教育の可能性」に関する討論の紹介と、今後東京部会の関係者を中心に、このテーマを核にして実践研究を行ってゆくことが紹介されました。
- (4) 杉田先生から、福島大学での経済教育の取り組みの紹介があり、連携の可能性を探ることになりました。
- (5) 埴枝里子先生（都立府中東高）の「公共料金の経済学－市場における政府の役割を考えてみよう－」の教材検討が行われました。
まず、共同開発者である加藤一誠成先生（慶応義塾大）から、専門の研究者の見解も含めた公共料金の考え方が説明されました。篠原総一先生からも教科書の独占の扱いに関する問題点が指摘され、検討が行われました。埴先生の授業案は教室での実践を踏まえて、夏の教室で提案される予定です。
- (6) 高橋勝也先生（都立武蔵高・中）の「景気変動や金融政策（アベノミクスと黒田緩和）を考える」の検討が行われました。高橋先生からは今後、改定した授業案に取り組みたいとの意向が表明されました。篠原先生からは、現在の教科書は、マネーとファイナンス、アセットマネジメントという別々の領域が一つ「金融」というまとめ方をされていることの問題点が指摘され、そのような問題点を踏まえた授業づくりが必要との指摘がされました。
- (7) 金融広報中央委員会の夏季の講座および論文の募集、野村総研の論文募集など、関連団体の情報が提供されました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo083report.pdf>

■札幌部会 (No. 15) を開催しました。

日時：2016年5月21日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンクセミナールーム

主な内容：参加者15名。

- (1) 野間敏克先生（同志社大学）より、夏休みの経済教室のプログラム予定についての説明が行われました。また、加藤一誠先生作成による「公共料金について（メモ）」を用い、自然独占と人為的独占の区別など、東京部会での議論内容についての紹介が行われました。

(2) 川瀬雅之先生（札幌旭丘高）より、今年3月実施の北海道公立高校入試問題が提示され、議論が行われました。特に、「需要量が供給量を上回った場合の価格の決まり方」の問題に関連して、需要の変化（シフト）と需要量の変化（曲線上の変化）の混同について問題点が指摘されました。

(3) 山崎辰也先生（北見北斗高）より「思考実験としての価格の形成」の授業案の提示と改善に向けて意見交換が行われました。模擬貨幣を使って「競り下げ型オークション」によって需要・供給曲線を導出すること、紙幣を増額して需要曲線のシフトをつかませる狙いの授業で、今後、実際にシミュレーションを行って、さらなる改善を加えていくこととなりました。

(4) 山下豊先生（札幌市立簾舞中）よりネットワーク年次大会の報告が行われました。また、教科書研究プロジェクトの作業分担と作業手順の確認が行われました。

(5) 自己紹介及び近況報告が行われました。7月の参議院議員選挙についての関心が高く、川瀬先生から関連著書として、北海道高等学校教育経営研究会『高校生を主権者に育てる』（学事出版）が紹介されました。また、野間先生からは、部会間交流の案内がありました。内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo015report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

* イベント予定です。

■ 冬の経済教室を開催します。

日時： 2016年12月27日 13:00~16:45

場所： 慶應義塾大学 三田キャンパス 東館ホール

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016GeoFuyukeizai.pdf>

* 定例部会のお知らせです。（開催順）

■ 東京部会（No. 83）を開催します

日時：2016年6月14日（火） 19:00~21:00

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo084flyer.pdf>

■大阪部会 (No. 49) を開催します

日時：2016年6月25日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング17階

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/Osaka49flyer.pdf>

■名古屋部会 (No. 7) を開催します

日時：2016年7月2日(土) 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車6番出口より左へ徒歩5分

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/Nagoya006flyer.pdf>

* 関連団体のご案内です。

・金融広報中央委員会

2016年度 先生のための金融教育セミナー (8月・東京)

8月10日(水) 高等学校・大学向け

8月18日(木) 小学校・中学校向け

会場：日本教育会館 (東京都千代田区)

<https://www.shiruporuto.jp/event/2016/16semi2/>

・野村総合研究所

第11回 NRI 学生小論文コンテスト

テーマ：Share the Next Values!

「世界を変える、新たな挑戦」

高校生の部の受付：2016年7月1日(金)～9月12日(月)です。

<https://www.nri.com/jp/event/contest/gaiyo/index.html>

【 3 】 授業のヒント

■二つの考えを突き合わせる

今回の話は単純です。ものを見るには複眼で見ようということです。そのために必要なことは複数の資料を用意する、もしくは授業準備で読んでおくことということです。

政治的な論争問題だとディベートスタイルの授業にすることで、それが担保できます。経済でも、TPPの評価などがそれに当たるでしょう。

18歳選挙権の授業に関しては、東京都教育委員会は政治的中立性を保つために、新聞を使うなら6紙（読売、朝日、日経、毎日、産経、東京）を使うようにという指示を教員を集めて行いました。そんな指導は余計なことと思う先生方もいるかもしれませんが、6紙は無理だとしても、大きく二つのブロックに見解が分かれることが多いので、最低2紙は利用しないと物事は立体的に見ることができないことはたしかです。それから考えると、都教委の指示も理由のないことではないといえるでしょう。

経済の場合は二つの立場の資料は、現在の論争問題を考えるのに参考になるだけでなく、どちらが正当だったかの判定材料にもなります。それは、経済政策に関する主張では、時間の経過とともに結果が明らかになることが多いからです。その意味では、複眼で見ることは、自説を一度棚に置いてものごとをしっかり見るためにも必要なプロセスになります。

ちなみに、日銀の金融政策（黒田緩和）の吟味のためには、データの分析だけでなく、現在日銀の副総裁をつとめている岩田規久男氏と、現在京都大学にいる翁邦雄氏の所説を並べて検討することが役立つかもしれません。かつて、岩田－翁論争をしたお二人が、攻守所を変えて再び論争したら面白いと思うのですが、日銀副総裁という公職だと昔のようなアグレッシブな論調での意見表明ができませんから、論争としては成立しないものになるかもしれません。岩田、翁氏の本は新書で出ていますから、授業で使う、使わないという以前に、手に取って読まれるとよいでしょう。（新井）

【 4 】編集後記（みみずのたはこと）

先日、「ガリガリ君」をつくっている赤城乳業の工場見学にゆきました。
「ガリガリ君」は子どもや若者が食べるものと思っていたら、40代男性が購買層の中心なんだそうです。子どものときに食べた味は一生忘れないということのようです。蒸し暑いこれからの季節、私も気持ちだけでも子供にもどって「ガリガリ君」で元気をつけてもいいかななどと思ってしまいました。
（新井）

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇